



東京女子医科大学学術リポジトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>



チュートリアル課題 見捨てられた大地

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	チュートリアル課題
巻	1998
号	B1
発行年	1998-10-21
URL	http://hdl.handle.net/10470/1194

1998年度

Block 1-3期 テュートリアル課題

課題番号 10

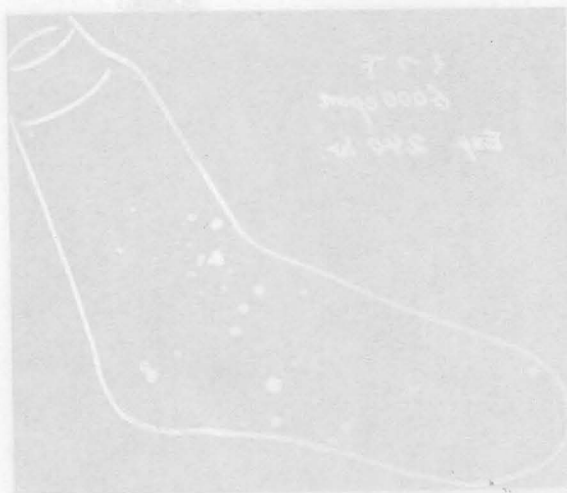
見捨てられた大地

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

TWMU Block 1-3 生物学教室 松下 晋
放射線医学教室 福原 昇



■ キエフの北方のチェルノブイリ原子力発電所を中心とする半径30 kmの豊かな穀倉地帯に住んでいた人々は1986年4月末～5月初めに全員移住させられました。13年後の今も、この地域には人が住むことは許されていません。



国大立バるアJ県書放普行放国最
 露間同045) トてそせ本じミイー本
 (角製用文元川吉) (のまスJ光

■ チェルノブイリ原子力発電所の事故直後には消火などの作業に当たった発電所職員と消防士など合わせて数百人が入院しましたが、そのうち28人が数カ月以内に死亡しました。この他に多くの人々が様々な影響を受け、13年後の今になっても苦しんでいる人が多数います。

。セモハアアチはる吉勝のう式はる見>き

亡くなった28人は、おおよそ2～16グレイの放射線を被曝したと推定されています。この線量は生体のほとんどが水から成っていると仮定してその温度をわずかに0.0005～0.0038℃上げる程度のエネルギー量でしかありません。これよりはるかに少ない量しか被曝しなかったチェルノブイリ周辺に住んでいた一般の人々の間でも、事故後には末梢血リンパ球に染色体異常が多く見られたとの報告がなされています。